

ひびき

すべては
子供たちの
笑顔のために

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
Tel.0267-31-0251
Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

東信教育事務所

ひびき

Vol.4

令和6年 11/29
(2024年)



かける

Hibiki vol.4 「かける」

- “授業から学ぶ”
・子供が主体的に追究する授業を目指して
～運動の楽しさに触れ、自ら運動に取り組む～
- “研修の窓”
・みんなで考える人権教育 今日から何ができる？
～東信地区（佐久・上小）
学校人権教育連絡協議会から～
- “考える部屋”
・一人一人が「学校づくり」の当事者になる
～「じぶんでかんがえ みんなでつくる」
学校を目指して～
- “生涯学習課より”
・多様性の中でどう生きるか
～体験を通して考える御代田中の取組事例～

駆ける

掛ける

描ける

架ける

翔る



授業から学ぶ

(小4・体育)
「フロアーボール」



子供が主体的に追究する授業を目指して ～運動の楽しさに触れ、自ら運動に取り組む～

体育の授業で、「授業してよかったな」と思うのはどのような時でしょうか。「先生、おもしろいから、もっとやろうよ」と子供が主体的に追究していったA先生の授業から、考えてみましょう。

ボールを持たない時の動きを考えながら、フロアーボールを行うことを通して、ネット型ゲームの楽しさを味わってほしいな。



A先生

【フロアーボールによせるA先生のねらい】

空中をボールが移動してくるバレーボールとは異なり、フロアーボールのボールは地面を転がってくるので、ボール操作が容易になり、ボールを持たない時の動きに意識を向けることができる。また、ボールに合わせて移動するなどのボールを持たない時の動きや、弾く・打つなどのゲームを楽しむための技能を身に付けやすい。テニスやバドミントンのような相手コートに直接返球する運動とは違い、「意図的なセットを経由した攻撃」を大切にしているところから、意図的なセットを経由したネット型ゲームならではの戦術的な学びの深まりも期待することができる。

1 教材化の工夫

- ① ルールの工夫 → コートにいる3人が1回ずつボールに触れて返球することで、運動量を確保するとともに全員が参加する意識をもつことができる。
- ② 用具の工夫 → ソフトフォームボールを使用することで、強く打っても浮きにくい。また、適度な重さがあり、ボール操作がしやすい。
- ③ 場の工夫 → アタックエリアを決めることで、ネットの近くからアタックをするイメージをもちやすくなる。
- ④ チーム編成の工夫 → 人間関係や運動技能、発言力等を考慮したグルーピングにすることで、チーム間のバランスをとることができる。

フロアーボールって楽しいな。



フロアーボールの楽しさに触れるため、既習事項や系統性、子供の実態、単元終末で目指す子供の姿の具体等を踏まえて教材を工夫しました。ボール操作が容易で、どこに動けばアタックしやすいのかななどの戦術的な学びの深まりも見られました。運動が苦手な子供も安心して意欲的に運動に親しむ姿につながりました。

2 学習過程の工夫

子供が前時までの取組を振り返り、本時の自己課題を設定し、その課題を解決するための練習内容や方法を個人で選択する。

→ 自分が練習したい課題の解決に応じた場が複数用意されている。



もっとたくさん得点したいな。ねらったところにアタックができればいいのかな。



自分の課題を解決するために、練習の内容や場所を考えて選ぼう！

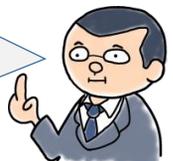
A先生

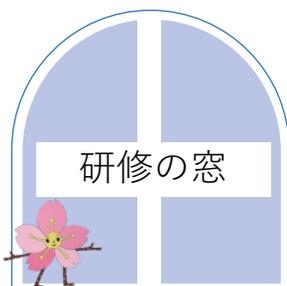
アタックの練習場所で苦手なアタックの練習をしたい。ペットボトルに向けてアタックしよう。



自己の課題を設定し、解決のための見通しがもてる場や練習内容を選択できることにより、子供たちは、自ら追究していくようになりました。

子供が主体的に追究していくためには、「問い」や「願い」が大切です。そのために、教師のねらい、教材化の工夫、学習過程の工夫といった様々な手立てがあることが分かります。その手立てが運動の楽しさにつながっていきます。運動の楽しさを味わう授業を、子供と共につくっていきましょう。





みんなで考える人権教育 今日から何ができる？

～東信地区（佐久・上小）学校人権教育連絡協議会から～

人権教育において「知る」ことは重要です。しかし、知識として認識したことが「実践行動」へ結び付くには、何が必要なのでしょうか。人権尊重の理念について十分に理解をした上で、人権教育を推進しましょう。

「人権教育とは人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動です。」

「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」より

「ご自身にとって、人権教育において大切にしたいキーワードは何でしょうか？」



大切にしたい キーワード	
-----------------	--

協議会では、以下のキーワードでグループを編成し、協議を行いました

テーマ	テーマ
A 個別の人権課題全般について	I 人権教育の全体計画やその見直し
B 部落差別問題	J あげぼのの活用
C 性の多様性	K 協力的、参加的、体験的な学習の実践
D 外国人	L 外部の方の講演を取り入れた指導
E 障がい者	M 地域や関係機関との連携
F 日常生活における人権教育について	N 校種間の接続や一貫性について
G 各教科等における指導	O 指導に関する校内研修の工夫
H 人権尊重の視点に立った学校づくり	P 職員の人権感覚を磨くための研修

【参加者の声】

- 人権教育の推進については問いが尽きないと感じました。
- 人権感覚、教師であっても違いがあり、難しいと感じています。まず自身の人権感覚を磨き、同時に他の先生方も巻き込めるように、プチ研修などで投げかけていきたいと思います。
- 転任したときや係を引き継いだときなど、慣習化してしまっているところもあると感じています。今回の協議は大変参考になりました。もうすぐなかよし旬間が始まりますが、ぜひ活用したいと思います。
- 「あげぼの」の活用について、ちょっとした時間で読むなど新たな視点をもつことができました。担当学年以外のあげぼのもぜひ見たいと思います。



人権尊重の理念は「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」です。このことを単に理解するにとどまることなく、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようになることが求められます。

人権教育において「知的な認識」を実践行動へ結び付けるために必要なのは、「人権感覚を育成すること」であり、その基盤となるのは、私たち教師の日常的な指導です。教師の意図のあるないに関わらず、すべてが常に子供たちに届いていきます。まずは私たちの人権感覚を磨き、子供たちと向き合っていきましょう。



参考資料：人権教育の指導法等の在り方について【第三次とりまとめ】 長野県教育委員会人権教育指導資料集

「学校における人権教育の目標」

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」については、東信教育事務所だより「響き」令和5年度第6号をご覧ください



事前アンケート

「各校の取組」より
(回答のあった学校のみ掲載)
閲覧期間2月末日まで





考える
部屋

一人一人が「学校づくり」の当事者になる ～「じぶんでかんがえ みんなでつくる」学校を目指して～

先生方の学校では、目指す子供の姿に向けてどのような取組を行っていますか。全校で日常の授業改善に取組んできたA小学校の様子から改めて「学校づくり」のあり方について考えてみましょう。

A小学校では学校教育目標「じぶんでかんがえ みんなでつくる」のもと、全校研究テーマ「自律をめざして探究・共生する子ども」に向けて、昨年度より「探究」・「共生」の2つの部会を中心に日常的な授業改善に取り組んでいます。本年度、教育課程研究協議会（社会科）で授業公開するにあたり、研究主任のB先生は次の願いをもとに授業づくりを進めました。



まずは、目指す子供の姿を先生方と一緒に考えるところからスタートしたい。

取組1 目指す子供の姿の具体について「対話」する

研究主任
B先生

子供たちが問いをもち続けている姿が探究する姿かな。

子供たちが自分事として考えている姿だと思う。



自分以外の考えのよさを認めようとする姿が共生じゃないかな。

仲間の考えから自分の考えを見直したりする姿だと思う。

目指す子供の姿を互いに語り合うことで、願いを共有している実感をもつことができ、同僚としての一体感が芽生えてきたようです。すると、授業公開する当日を「自分でもやってみたいと思える日にしたい」、「この授業に至るまでの関わり、願い、歩みが伝わる一日にしたい」と、当日への願いや期待感を語る先生方の姿に繋がりました。



授業者の思いを大切にしながら、みんなで授業づくりに関わっていききたい。

取組2 一人一人が考え、「協働」的に授業を創り上げる

見方・考え方を働かせるってどういうことかな？

評価規準はどう書いたらいいかな？



どうすれば「目指す子供の姿」と繋がるかな？

どんな資料があったらいいかな？

指導案づくりでは、授業者を中心に同時共同編集でアイデアを練り上げたり、授業で使用する資料を協力して作成したりしました。一人一人が「自分が授業をするなら…」という視点で意見を出し合い、授業に懸ける思いを高めて、授業公開当日を迎えました。

「対話」と「協働」を柱に日常の授業改善に取り組んでいるA小学校。先生方自身が学校教育目標の具現に向けて実践を進めることで、活気ある学校をつくっています。

ご自身の学校の目指す子供の姿や授業づくり・学校づくりのキーワードは何ですか？また、そのために取り組んでみたいことは何ですか？



目指す子供の姿やキーワード

取り組んでいることや取り組んでみたいこと

Blank box for writing the target child's posture or keywords.

Blank box for writing activities or things to be tried.

「多様性の中でどう生きるか」 ～体験を通して考える御代田中の取組事例～

御代田中学校では、「多様性の中でどう生きるか」を人権教育の年間テーマに据え、学習に取り組んでいます。1年生から3年生までの縦割りのグループで、全校生徒が様々な人との出会いや、体験を通して、自らが「知り」「感じ」「考える」学習を行いました。

「1日人権学習」の様子

車椅子ボールチャレンジ



競技用の車椅子に乗り、全員で車椅子ポートボールにチャレンジしました。

車椅子で探そう



小グループに分かれ、実際に町に出て、目的地まで車椅子で移動しました。

ブラインド体験



白杖を使いながら、校舎内を移動しました。介助者がいない状況も体験しました。

人にやさしいってどういうこと？



人権マップや住宅地図を通して、自分たちの町の「人に優しいところ」や「気になるところ」を考えました。

ふりかえりと共有



体験を終えた直後に感じたことや考えたことを模造紙に書き込んでふりかえり、共有しました。

車椅子に乗っていると視線が低くなるから、車などが近くに感じて怖かったです。また、少しの段差や、坂道も乗っていると怖く感じました。でも、「右に曲がります」と声をかけてもらえると安心しました。また、前から来た歩行者がよけてくれて、そんなちょっとした優しさが様々な人の支えになっていると感じました。



車椅子体験をした生徒



ブラインド体験をした生徒

目が見えないと、どこに何があるか分からないからすごく怖くて大変でした。サポートがあったおかげで安心できました。サポートがなくてもできたけれど、それは校舎の地図が頭の中に入っているからで、全く知らない場所だったらきっとぶつかっていたと思います。

「1日人権学習」を終えた生徒たちは、後日、活動を共にした縦割り班の仲間と共に学習の振り返りを行い、改めて「多様性の中でどう生きるか」について考え、伝え合いました。

「1日人権学習」を振り返って

活動の様子



一人ひとりが個人で活動を
ふりかえり・・・



それを、縦割り班の
仲間と共有し・・・



来年度の人権宣言に
向けて、大切にしたい
言葉を伝え合いま
した。

「多様性の中でどう生きるか・・・」

「誰かが」ではなく「自分が」動けば、少しは変わることがあると思った。多様性を尊重することで誰も傷つけることなく生活できるし、相手の立場に立って考えることで新たに気付くことがあるということも感じた。だから多様性を大切にすること、相手の立場に立って視野を広げることがこれからも大切にしたい。

(3年 女子)



人に公平に接し、障がい者だからといって態度を変えないで接することもよいと思った。障がいに気を遣いすぎるのも、気を遣わないのもいけないと思った。だからこそ、相手の気持ちを考えることを来年度の人権宣言に向けて大切にしたいと思う。

(2年 男子)



「様々な人との出会いや体験を通して、自他の大切さや、これからの自分の生き方について考えてほしい」という先生方の思いから、町の社協、安協、パラウェブNAGANOなど多くの人が関わりダイナミックに学習が展開されました。体験をして終わり、感想を書いて終わりではなく、仲間と互いの感じ方や、考えを共有することを通して、「多様性の中でどう生きるか」の問いに対し、一人ひとりが言葉を紡ぎました。

生徒たちは今回の学習を通して、「知る」だけでなく自らの心で「感じ」「考える」ことができたのではないのでしょうか。だからこそ「多様性の中を生きる当事者」として自分たちがどう行動をするのかまで考えることができたのではないかと思います。

御代田中学校では、昨年度「御代田中学校人権宣言」を作り上げました。今回の学習のまとめとして、この人権宣言の見直しを行う予定です。「体験して終わり」「作って終わり」ではなく、絶えず学び、自らの人権感覚を高める大切さに改めて気づかされました。

MJHS 人権宣言

相手の意見や個性を認めます
外見で決めつけません
自分の個性を大切にし、自分を少しも好きになります
お互いのことを尊重し合います
たくさんの方を知りたいです
お互いを高めながら生活します
多様性の意味を理解します
お互いに助け合います
相手の立場に立って考えます
相手の話をよく聴きます
自分の考え方を大切にします
周りの人の差別的な考えや偏見に流されません
自分を愛しようと努めます
人に公平に接します
視野を広げます
自分の考えを持ちます
今ある問題を見つめます
世界は広いということを見ておきます
相手に寄り添い、ありのままを受け入れます
思いやりを尽くします
自分も相手も大切にします

